

# 自己（自園）評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月31日

学校法人関口学園 明昭第二幼稚園

## 1. 本園の教育目標

幼稚園は子どもたち一人ひとりが安心して過ごし、自己発揮できる集団生活の場である。一人ひとりの興味や関心、思いを大切に、子どもたちの成長しようとする力、主体性を大切に心身ともに健やかな成長・発達を遂げるよう援助・保育に取り組んでいる。

本園では、次のような教育目標を掲げ、日々、保育を進めている。

○生き生きとした子ども 心も身体も健康で生き生きのびのび充実感いっぱいの子どもに

○なかよくする子ども 人とふれあい、生活する喜び、楽しさを持てる子どもに

○考える子ども 自分で考え、行動する意欲的な子どもに

○正直な子ども 人に迷惑をかけない、思いやりのある子どもに

○うるおいのある大らかな子ども 情緒の安定した感情豊かな子どもに

## 2. 具体的な目標や計画

評価項目に沿い、自己点検・評価することにより、自己（自園）の保育やクラス運営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、安心・安全な保育を心がける。園内・園外研修により保育の質の向上に努める。幼児理解に基づき、保育の再構成・改善を図る。

## 3. 評価項目の取組及び達成状況

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

	評価項目	評価	取組み状況
1	《教育課程の編成と実施》 園の教育目標、幼稚園教育要領の内容、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態を踏まえて、保育計画をたてている。	A	教育目標、教育課程を理解した上で、毎週学年全体で話し合い、週案をたてている。子どもにあった楽しい保育ができるようにしている。 一人ひとりの成長・発達を見守り、楽しさを伝えられる保育活動を中心に行う。
2	《保育の重点》 子どもたち一人ひとりをよく理解し、個性を大切に一人ひとりを尊重した保育、対応、評価をしている。 ○一人ひとりを大切に作る保育	A	子どもたち一人ひとりを理解し、言葉かけや援助をし、活動が楽しいものになるようにしている。 頑張ったことを認め、良いところを伸ばすように努めた。
3	《保育の重点》 子どもの活動がより豊かになるように自ら活動を展開していけるような場所や空間などの環境構成をする。 ○主体性を大切にする保育	A	子どもの興味や関心に合わせ環境構成するようにしている。保育者から遊びの発信をし遊びを広げるようにした。 必要だと思ふ廃材、素材を用意し、遊びのイメージが膨らむようにする。
4	《研修による保育の質の向上》 園内外の研修に積極的に参加し、資質の向上をはかる。	B	園内研修は学期に1回、臨床心理士の巡回訪問指導をもと支援が必要な園児の保育に活かしている。園外研修はオンライン研修

			を中心に全員参加によるものが多い。 東京都、葛飾区私立幼稚園連合会によるキャリアアップ研修に参加し、保育の向上をはかる。研修報告会を適宜開催し、共通理解を適宜図ることが出来なかった点が今後の反省・課題である。
5	<p>《安全管理》</p> <p>防災避難訓練、防犯訓練を実施する。施設設備の安全点検を定期的に行い、危険の早期発見・早期対応をはかる。</p>	A	<p>学校安全計画を作成する。</p> <p>毎月1回訓練を実施する。 (年間を通して防災10回、防犯2回)</p> <p>遊具点検を年1回実施、危険箇所を補修する。火災機器と学校110番装置点検年2回、防犯カメラの点検を行う。</p>
6	<p>《保健管理》</p> <p>内科・歯科健康診断の実施と毎月の身長・体重測定。 手洗い(消毒)、うがい、マスクを着用し、感染予防対策を徹底する。室内の喚起、消毒をし、衛生管理をする。</p>	A	<p>学校保健計画を作成する。</p> <p>5月に内科・歯科検診を実施する。毎月の身長・体重測定をし、成長記録をとり、親子とも成長の喜びが感じられるようにする。 うがい、手洗いは徹底できたが、マスクをきちんと着用することが難しい年少児もいた。11月に1クラス学級閉鎖となる。対応は迅速にできた。 が、感染防止は困難であった。</p>
7	<p>《預かり保育》</p> <p>保育後の園での過ごし方を考え、環境整備する。 保護者の需要に応え、実施する。</p>	A	<p>専任担当者を1名増やす。2名とする。 春休みの預かり保育期間を3月31日までに延長する。定期利用を週4日以上から3日以上に変更し、利用しやすくした。</p>
8	<p>《保護者・地域との連携》</p> <p>保護者へのメール連絡、動画配信や、クラスだより保育参観による情報の発信、日々の保育相談や個人面談による連携により子どもの育ちや保育理解を深める。 地域と連携して活動を行い、地域・地域の子育て支援にも貢献している。</p> <p>小学校との連携を深め、小学校入学への喜びや期待感を持つ。</p>	B	<p>コロナ禍にあって、保護者への情報発信や保育への理解をいただき、保護者との連携については一定の効果が得られた。参観も日数を増やし、参加者数を少なくするなど工夫を凝らした。感染状況次第だが、保育参加、行事参加人数を増やせると良い。(1家族2名)</p> <p>6月に年長児が地域の菖蒲まつりパレードに鼓笛隊で参加。地域の子育て支援として2歳児親子の活動めいししょうプレイランドを月1~2回実施する。</p> <p>コロナ禍により人数を制限しての活動となったが安全に精一杯の活動できた。幼児と児童間の連携は今年もコロナ禍により実現できなかったが、プレゼントをもらったり、学校案内のポスターをいただくことで小学校への期待感を持つことができた。今後は、子ども同士の交流や行事などの連携・協力ができると良い。</p>

9	<p>《施設設備》</p> <p>施設・設備の点検、補修、改善、管理が適正に行われている。</p>	B	<p>指定業者による定期点検の実施。</p> <p>デッキの一部補修を行う。</p> <p>新築から12.3年が経過し、経年劣化する箇所も増えてきている。</p> <p>補修までに時間がかかった。</p> <p>園庭の改善が今後の課題となる。見積りをとるが高額なため、予算取りが必要である。</p> <p>空調機器については耐用期間が過ぎているため、次年度にエコ補助金を利用し、購入・設置するよう計画をたてている。</p>
10	<p>《新規事業 満3歳児クラス運営》</p> <p>募集、入園手続きなど問題なく進める。室内設備、環境が十分に整っている。担任など人員配置が適正で、子どもたち一人ひとりを援助・保育できる。保護者との連携がとれ、相談しやすい環境となっている。</p> <p>他の園児との交流、行事や活動の中はかかれている。</p>	A	<p>定員25名で20名の利用を想定していたが、23名となり、イス、テーブルを補充。募集、手続きとも滞りなく12月生まれまで入園することができた。</p> <p>人的環境も2人担任以外にパートの先生も補助に入ることができ、一人ひとりを援助できた。</p> <p>保護者との連携、連絡は都度行い、相談ができる環境づくりに努めた。</p> <p>自由遊びやいろいろな場面で年長、年中児が面倒を見る機会があり、交流ができた。</p>

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>教育課程の編成と実施、保育の重点に関しては、幼児の実態に即して計画をたて、一人ひとりに寄り添う保育をすることができた。研修による保育の質の向上では、オンライン研修が多かったが一定の成果は得ることができた。しかしながら、職員間で共有する時間が十分にとれなかった。安全・健康管理は年間計画をたて実施することができた。</p> <p>預かり保育は人的環境を整え、定期預かりの拡大、春休み利用日数の増加により保護者が利用しやすいものとなった。</p> <p>また、新規事業の満3歳児クラスの開設も人員、環境が整い、入園手続きや運営などを順調に実施することができた。</p> <p>保護者・地域との連携は小学校との連携で幼児と児童の直接交流ができない状況の中で連携を深める工夫が出来ると良い。</p> <p>施設・設備では建物の経年劣化を考慮し、計画的な修繕計画をたてる必要がある。</p> <p>修繕すべきか所の順位づけをし、必要なことから進めていきたい。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容 行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期に年間計画をたて、工夫して活動を行うようにする。</li> <li>・ 行事に追われることなく、じっくりと活動に取り組めるようにする。</li> <li>・ 幼児の主体性を大切に一人ひとりにあった保育を心がける。</li> <li>・ 楽しい活動だけでなく、子どもの苦手なこと難しいと思うことにも目を向け、挑戦していこうとする意欲を育むようにする。</li> </ul>

2	保育の質の向上（研修）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外の研修の充実及び研修内容を職員間で共有し、保育に活かす。</li> <li>・質の向上のためのキャリアアップ研修を各自、受講する。</li> <li>・互いの保育を見学、保育の可視化について研修をし、園全体の保育の質の向上をはかる。</li> </ul>
3	保護者・地域連携（小学校）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携は6月の菖蒲まつりパレード参加の他にも交流活動を持つ機会を設ける。</li> <li>・小学校との連携では幼児と児童の交流の在り方を工夫し、その他の点でも交流できるようにする。（教師間、保護者間など）</li> </ul>
4	施設設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の水はけ対策をはかる。必要な道具の購入と園庭改善。</li> <li>・空調設備の設置・取り換え工事実施。</li> <li>・放送設備の修繕と購入。</li> <li>・業者による点検と保全。</li> <li>・必要箇所の修繕。（年度当初に点検、確認）</li> </ul>
5	I C T化 次年度 新規事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのリニューアルによる情報発信（教員採用含む）</li> <li>・コドモン導入によりバス位置情報、保護者連絡システムを確立する。</li> <li>・各クラスにタブレットを置き、指導計画、ドキュメンテーション等保育に導入できるように土台を築いていく。</li> </ul>

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

学校関係者評価委員5名により前述の自園評価全10項目につき評価いただく。  
 B評価が項目4研修による保育の質の向上で1名、項目5保健管理で2名、項目8保護者・地域との連携、項目9施設設備で2名、それ以外はA評価であった。  
 新型コロナウイルスの影響により、対面式の研修ができず、ZOOMによる研修参加に留まったこと、地域や小学校との連携が十分にはとれなかったこと、施設面では建築から10年以上経過し、機器類の交換・対応が必要になってきたことがB評価の要因である。  
 総合評価としては5人全員にA評価をいただいた。  
 令和5年度はコロナ以前の状況に戻りつつあるため、B評価の項目4, 5, 8については改善が期待できる。項目9についても順次、点検・交換にとりかかることになっている。  
 学校関係者評価委員からはコロナ禍にあって、工夫した活動を行い、一定の保育成果をあげたことに高評価をいただいた。

## 7. 2023年度の取り組み

自己（自園）評価、学校関係者評価をもとに改善に努め、引き続きより良い保育を目指します。  
 ○園内・外の研修（キャリアアップ研修など）に積極的に参加し、保育の質の向上に努めます。  
 ○保護者との連携についてはI C Tアプリ・コドモンの運用を本格的に実施し、地域との連携は菖蒲まつりのパレード参加や小学校との連携を中心に積極的に行っていく。  
 ○施設設備については夏に空調設備の全面取り換えを実施し、必要な個所の点検・修繕に努める。園庭についても必要な改良を検討していく。  
 ○満3歳児保育の充実を令和4年度に引き続き図っていく。  
 新規事業  
 ○葛飾区の特色ある幼児教育補助に対し野菜の栽培を中心とした食育活動等の申請を行う。  
 ○SDGs教材「ちきゅうフレンズ」を導入し、SDGsに関連した活動・保育を行う。  
 ○令和6年度に私学助成園から新制度園への移行する準備を行い、経営の健全化を図る